

この冊子では、5歳児を前期と後期に分けています。品川区では、5歳児の10月からを「ジョイント期」と位置付けており、ジョイント期の前の「5歳児前半」と、ジョイント期がスタートする「5歳児後半」に分けています。(詳しくは、P.34をご覧ください)

5歳児 前半

5月 「明日もみんなて遊ぶために」

これまでの幼児の姿 (経験してきたことや育ち)

- 4歳児から様々な材料でつくって遊ぶことを楽しんできた。5歳児になり、自分の色鉛筆とクレヨンを使って、イメージした物を製作することを楽しんでいる。
- 5歳児になって、大型積み木を使えるようになったことがうれしく、自分なりに考えたり、友達と一緒に考えたりしながら、場をつくって遊ぶことを楽しんでいる。

ねらい

【週のねらい】 進級した喜びを感じながら、気の合う友達と一緒に好きな遊びを十分に楽しむ。
 【日のねらい】 気の合う友達と考えやイメージを出し合いながら、遊びを進める楽しさを感じる。

エピソード

大型積み木を自分の基地のようにして遊んでいた数名の友達に対し、一人の子どもが「(みんなの積み木を)合体させたら大きな船ができるね」と提案した。すると、基地づくりをしていた子どもたちも賛同し、みんなで大きな船をつくり、その周りに魚を並べる等して、さらにイメージを膨らませて遊んでいた。そこで保育者は「この魚、釣れたらおもしろいね」と声をかけた。それを聞いた一人の子どもが新聞紙を丸めて釣りざおに見立てると、今度は他の子どもが、その魚を釣りやすいように魚の口の部分に突起を付ける等して、協力して遊びをつくり始めた。「もっと海みたいにしたい」と言った子どもの声に、保育者はカラーポリ袋を手渡して遊びを盛り立てると、子どもたちは互いにルール等を決め合いながら次々と遊びを広げていった。



片付けの時間になり、「明日も続きをやりたい」という子どもたちに対して、「どうしたらよいか」と投げかけると、「よく見えるロッカーの上に置く」「だれかに触られないように張り紙をする」「だれの釣りざおか分かるように名前を書く」等、活発な意見が出て、その遊びを数日間楽しむ姿があった。

保育者の援助

- 友達と考えやイメージを出し合いながら遊びを楽しめるように、子どもの思いやつぶやきを捉えて、他児に知らせていく。
- 友達との遊びを大切にできる気持ちにつながるように、考えたことを実現しようとする姿を見守ったり、さらに遊びが楽しくなるような材料を提示したり、アイデアを提案したりする。
- 子どもの願いにすぐに答えを出さず、自分たちで試行錯誤して考える機会を設け、考えを共有し合いながら遊びを継続する連帯感が味わえるようにする。

環境の構成

- 今まで使うことがなかった、年長用の用具 (大型積み木) で遊んだり、片付けたりする中で、年長組になった喜びを感じられるようにする。
- イメージが膨らむように、一人一人の思いに合わせて教材を準備する。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の視点から、大切にしたいポイント

- ★ 自分なりに考え、描いたりつくったりした物を使って遊ぶことを楽しむ。 → 自立心 豊かな感性と表現
- ★ みんなで使う物を大切に、片付け方を自分たちなりに考える。 → 協同性 道徳性・規範意識の芽生え
- ★ 友達や保育者に考えや思いを伝えたことによって実現する楽しさを感じる。 → 言葉による伝え合い

これまでの幼児の姿（経験してきたことや育ち）

- 様々な環境に関わったり、保育者が意図して提示した遊びを楽しんだりする中で、自分の好きな遊びを見つけて楽しむようになった。
- 友達がしていることに興味をもち、見たり、自分の遊びに取り入れたりして楽しむ姿や、気の合う友達に自分の思いや考えを言葉で伝えようとする姿が多くなってきている。
- 自分のやりたいことを繰り返し楽しむ姿が多くなり、友達や保育者、様々な物との関わりを楽しみながら、2～3日継続して遊ぶ姿も見られるようになってきている。

ねらい 【週のねらい】 自分なりの目当てや、友達と同じ簡単な目的をもち、自分たちの遊びが楽しくなるように、考えたり伝えたりしながら遊ぶことを楽しむ。

【日のねらい】 自分なりのイメージをもって試したり工夫したりして遊ぶ中で、友達と関わって遊ぶことを楽しむ。

エピソード 昆虫が好きなA児が空き箱やロール芯でクワガタをつくっていると、B児が興味をもち「僕もやってみる！」とカブトムシをつくり出した。保育者は自分なりに工夫してつくるA児の姿と、A児のしていることのおもしろさに気付いたB児の姿を認め、本物らしくつくることのできるような材料や作り方を提示した。また、互いの考えが伝わるように「A君のクワガタは羽根も付いているのね」「B君のカブトムシのつのがかっこいいね」等と言葉をかけた。保育者の言葉を聞き、2人は自分の昆虫を動かしながら、相手に向き合わせて遊び始めた。「力比べしているみたい！」と保育者が声をかけると、A児とB児は顔を見合わせて笑い、茶色い色画用紙を丸めた木の枝を段ボールに付けて、木の幹をつくった。木の幹の上で「力比べ」をするイメージが2人の中で共有され、昆虫の森づくりが始まった。



保育者の援助

- 自分なりに工夫して遊ぶ姿を、「よく考えついたね」「足の形が本物と同じみたい」等、具体的な言葉で認める。
- 遊びがより楽しくなるように、楽しんでいることを捉えて、遊び方を提案したり教材を提示したりする。
- 他児のよさに気付くような言葉がけをする。

環境の構成

- イメージした物を工夫してつくることを楽しめるように、遊びを予想し、必要な材料や素材、用具を製作棚に置いておく。（廃材や様々な種類の紙、テープ、絵の具等）

「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の視点から、大切にしたいポイント

- ★ 自分のしたい遊びを見つけて十分に楽しむ中で、イメージをもって工夫しながら遊ぶ。 → 自立心 豊かな感性と表現
- ★ 他児のやっていることに興味をもって見たり、自分の遊びに取り入れたりする。 → 思考力の芽生え 社会生活との関わり
- ★ 友達と一緒に遊んだり、関わったりする中で、相手に自分の気持ちを言葉で伝えたり、相手の話を聞いたりしながら遊び、友達（相手）がいるよさや、友達と遊ぶ楽しさを味わう。 → 協同性 言葉による伝え合い

これまでの幼児の姿（経験してきたことや育ち）

- 鬼ごっこやボール投げ等で体を動かすことを楽しんでいる。ゴム跳びやフープを並べて、ケンパー跳び等の遊びができるようにすると、両足跳びをしながら、うれしそうに遊ぶようになった。
- 4歳児のとき、5歳児が大縄跳びで遊んでいる姿を見て、大縄遊びに興味をもち始めた。へび跳びや大波小波から始め、進級すると、徐々に回し跳びで遊ぶようになった。

ねらい 【週のねらい】 自分なりの目当てに向かって、繰り返し遊ぶ満足感を味わう。

【日のねらい】 好きな遊びをしていく中で、体を十分に動かす気持ちよさを感じる。

エピソード 大縄遊びが大好きなY児。保育者に回数を数えてもらい、うれしそうに何回も跳ぶ。保育者が「今日は昨日よりも多く跳べたね」と声をかけると、「明日は〇〇回跳ぶぞ」と期待が膨らんでいる。「繰り返しやりたい」「できることが楽しい」という思いが見えたので、子ども自身が大縄を出し入れできる場を設定し、遊ぶ時間を十分にとった。するとY児は、大縄を自分で用意し、保育者に縄を回してもらって跳ぶことを楽しみにするようになった。何回も繰り返し遊んでいるが、ジャンプに力が入り、疲れてくると引かかっていたので、「大きく跳ぶと疲れちゃうね」とY児に伝えてみると、少し考え、思い付いたように、ジャンプする高さを調整しながら跳ぶようになった。跳べる回数も増えて満足そうだった。

Y児の真剣に遊ぶ姿に興味深く見ている子どもたちに「どうしたらもっと跳べるかな」と尋ねると、「前を向いて跳ぶといいよ」と言い、一緒に遊び始めた。



保育者の援助

- 目当てに向かって活動する子どもの思いを読み取り、できたことだけでなく、やってみようとした姿を認めていく。
- 友達の遊びに興味をもち、互いに遊びを深めていけるように、考えたことを伝え合えるような言葉がけをしていく。
- 興味や関心の高まる姿を受け止め、十分に遊べる広い場や時間を確保する。

環境の構成

- 子どもが満足するまで何回も繰り返し挑戦しながら遊べるように、十分な時間を設定する。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の視点から、大切にしたいポイント

★ 自分のやりたいことを、満足するまで十分に取り組む。

➔ 健康な心と体

★ 遊びたい遊具や用具を自分で選択し、自分なりの目当てをもって繰り返し遊ぶ。

➔ 自立心

★ 繰り返し遊ぶ中で様々なやり方を考えて試してみる。

➔ 思考力の芽生え

★ 友達と一緒に考えながら遊びを深めていく。

➔ 協同性

言葉による伝え合い

★ 回数を数えながら跳ぶことで数量の感覚をもつ。

➔ 数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

事例から読み取る

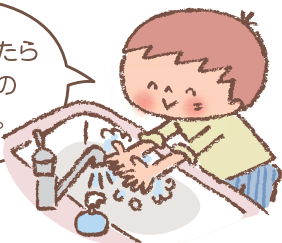
5歳児
前半

の特徴

自分たちの生活や遊びをつくる

- 憧れの年長組になった喜びでいっぱい。5歳児の保育室で生活することがうれしく、意欲的になる。
- 4歳児までの体験を土台に、必要なことを自分で考え、自分のしたいことに見通しをもって、生活するようになっていく。

ごはんを食べたら
さっきの遊びの
続きをしよう。

友達と思いを伝え合う中で、
認めたり認められたりする

- 自分とは違う考えが相手にあることが分かりながらも、自分の考えや気持ちを通したくて葛藤する。
- 互いに思いや考えを相手に分かるように話し、相手の話すことにも関心をもってよく聞き、相手の気持ちに気付くようになる。

つくったの。

いいね。つくって
みたいな。

自分なりの目当てに向かっ
て繰り返し取り組み、達成
感を味わい、遊びを楽しむ

- 自分なりの“目当て”をもち、自分で考えたことを試して具体的に実現しようとする。「本物らしくしたい」「次の日もやりたい」「続きが楽しみ」という思いが表れ、遊びに必要な物を自分たちで考えたり、工夫したりしながら遊びを楽しむ。
- 友達と話し合っただけで遊びを始めたり、目的に向かって遊びを進めたりする中で、友達とのつながりが深まる。

この時期に

大切にしたい保育者の援助

- 年長組になったことへの喜びや不安等の気持ちの変化を捉え、一人一人に応じて丁寧に援助する。
- 友達と遊んでいる中で、一人一人の思いや考えを丁寧に受け止め、代弁することで、互いのよさに気付けるようにし、友達がいることで遊びが楽しくなることを感じられるようにする。
- 日々の様々な出来事を一人一人の気持ちに寄り添いながら、場面や機会を捉えて周囲の友達に伝えたり、クラスで考えたりする。
- 自分の目当てに向けて考えたり、工夫したり、繰り返し挑戦したりする姿を認め、励ますとともに、周りの子どもたちにも知らせ、互いに認め合う関係をつくっていく。
- 互いの思いがぶつかったり葛藤したりするときは、それぞれの思いを大切に、自分たちで解決しようとする姿を見守ったり認めたりし、相手のことを大切にしたり、自分の気持ちを調節したりする姿につなげていく。

この時期の

環境構成の工夫

- 年長組になって使う新しい遊具や用具、材料等を用意したり、時間や場を十分に確保したりすることで、満足感を味わえるようにする。
- 子どもたちと一緒に生活の場をつくったり、整えたりすることを大切に、年長組になった実感もてるようにする。
- 気の合う友達と一緒に遊びを進めていくことができるよう、場の構成や時間の配慮をする。数日にわたって継続して遊びたい気持ちを大切に、場の確保をする。
- 自分たちで考えたことを実現して楽しむことができるよう、材料を用意したりアイデアを提示したりする。



これまでの幼児の姿（経験してきたことや育ち）

- B児と一緒にいることが多いA児には、自分の思いを言葉で伝えることができるが、関わりが少ない友達には自分の思いを伝えることが少なかった。しかし、少しずつ自分の思いを伝えようとする姿が見られるようになってきた。

ねらい

【週のねらい】 友達と互いの思いや考えを出し合い、やりたいことを実現する楽しさを感じる。

【日のねらい】 思いや考えを相手に分かるよう言葉で伝え、やりたいことを実現するうれしさを味わう。

エピソード

物語に出てきた船のイメージが膨らみ、A児とB児は、アイデアを出し合いながら、船づくりを楽しんでいた。

ある日、A児はB児に「昨日の船の続きをつくろうよ！」と声をかけ、ホールで大型積み木、段ボールのついたて、特大ブロック等を使って、自分たちが入れるぐらい大きな船をつくり始める。外側の形ができるとA児が「操縦席のハンドルを付けよう」と言い、B児が「いいね！ 回るようにしようよ」と、2人でハンドルが回るような仕掛けにしていた。



そこへ、ハンドルに興味をもった4歳児のC児が近づき、「何これ〜！」と、触ろうとした。A児とB児は戸惑った表情になり、動きが止まった。4歳児担任は、慌ててC児に声をかけようとするが、その様子を見ていた5歳児担任は、「今、B君が自分で伝えられそうだから、少し見守ってみましょう」と、4歳児担任に伝えた。B児は「今、これつくっている途中なんだよね」とつぶやく。A児は「完成したら、C君もやっていいけど…あ！ 明日もホールで遊べるよね…」と言った。それを聞いたB児は、C児に「今、動くようにしているんだ。明日なら、やっていいよ！」と伝えた。納得したC児と4歳児担任が「ハンドルが動くようになるのが楽しみだね」と言うと、A児とB児はほほ笑んだ。5歳児担任は、「C君に自分で言えたね」とささやくと、B児は誇らしげにうなずいた。

保育者の援助

相手に言葉で伝えたい、伝わってよかったと思える経験を大切に

- 一人一人の発達や成長を把握し、自分で伝える姿を大切に、見守ったり、必要に応じて伝え方を知らせたりする。
- 相手に自分が思ったことを伝えられたうれしさを受け止めたり、認めたりする。

環境の構成

思いを伝え合いながら、自分たちのやりたいことが実現できるように

- 自分たちのイメージが表現しやすいような、大型積み木や段ボールのついたて等の遊具を用意しておく。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の視点から、大切にしたいポイント

- ★ 自分のやりたいことに向かって楽しんで取り組み、状況や時間の流れを意識したり、見通しをもったりして遊びを進めていく。
- ★ 相手の思いを感じ取り、状況に応じて、自分の思いを相手に分かるように伝える。
- ★ 友達と一緒に目的の実現に向けて考えたことを伝え合い、工夫したり、試行錯誤したりしながら、見通しをもって取り組もうとする。

健康な
心と体

言葉による
伝え合い

道徳性・規範意識の
芽生え

協同性

これまでの幼児の姿（経験してきたことや育ち）

- 年長児になり、製作に使う材料や用具の種類も増えた。様々な材料の性質に触れ、段ボールカッターや幼児用ピンキングハサミ等を使った製作を繰り返し経験し、安全に扱えるようになってきた。
- 材料や用具を選びながら、イメージしていることを、より具体的に実現する楽しさや、本物らしくつくるために工夫するおもしろさを、繰り返し経験してきた。

ねらい

【週のねらい】 友達と共通の目当てに向けて、取り組む楽しさを感じる。

【日のねらい】 自分たちで材料や用具を選んで使い、工夫してつくることで、できた満足感を味わう。

エピソード

遠足で行った遊園地での経験を基に、学級のみんなで遊園地づくりを始めた。Y児のグループはタクシーをつくることになり、段ボールで動かせる車をつくった。乗って動かしてみると、扉の部分が開いたままになり、自分で押さえながら走らせていた。保育者が「扉を押さえるの大変じゃない？」と投げかけると、K児が掲示している遊園地の乗り物の写真を見ながら、同じグループの友達と扉を押さえるための方法を相談し始めた。

違う場でゴムを使った扉の仕組みを考えているグループもあることに気付けるように、保育者が声をかけると、グループの友達とその乗り物を見に行った。戻って来ると、かんぬきのような仕組みの部品づくりを始めた。扉が開かないようにするために、適度な穴の大きさ、部品の強度等の必要性に気づき、何度も試す姿が見られた。そしてついに、抜け落ちない仕組みが完成した。保育者は「自分たちでよく考えてつくったね」と伝えると、K児は誇らしげに仕組みを説明し始めた。



保育者の援助

自分たちの力で解決できた満足感をもてるように

- 相手の意見を真剣に聞く姿や、受け止めようとする姿を認める言葉をかけ、自分たちで解決しようとする意欲につなげる。

試行錯誤するおもしろさを感じられるように

- 何度もつくり直す姿を見守り、自分たちで粘り強く取り組んでつくったことを認める。

環境の構成

物の仕組みに気づき、自分で考え、選べるように

- 材料の性質や違いに気付けるよう、ゴムやひも、糸等を子どもが選び、試せるように出しておく。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の視点から、大切にしたいポイント

★「ドアを押さえる仕組みが必要だ」という必要感をもち、ドアが開かないようにするための方法を試し、形や仕組みを考えながら製作を進める。試行錯誤しながら目的に向かって取り組む。



思考力の
芽生え

豊かな
感性と表現

健康な
心と体

★「タクシーをつくる」という共通の目当てに向かって、友達に自分の気づきを伝えたり、友達の考えや気づきを受け止めたりしながら、言葉で相手に分かるように伝え、目当ての実現を目指す。



協同性

言葉による
伝え合い

2 月 「みんなで育てた大根をあげたい」

これまでの幼児の姿（経験してきたことや育ち）

- 2 学期より種から大根を育ててきた。毎日の水やりをしながら、生長を楽しみにしていた。
- 相手の言葉に対して自分の考えをもち、互いに伝え合えるようになってきた。

ねらい 【週のねらい】 友達と共通の目的をもち、考えを伝え合いながら、自分たちで遊びや生活をすすめていくおもしろさを味わう。

【日のねらい】 友達と思いを伝え合いながら、やりたいことを実現していこうとする。

エピソード 大根を収穫し、みんなで食べた翌日、保育者は収穫した大根に関心をもって大切にしてほしいと願い、残りの大根を幼児の目につきやすい靴箱前に飾っておいた。

好きな遊びが始まると、A 児、B 児が大根の近くにやってきた。「この大根細いね！」「これとこれ似てるから隣に置こう」等と話しながら並べ替えたり、何本あるか数えたりしている。A 児が「この大根どうするんだらうね」とつぶやくと、B 児が「このまま置いておいたら、古くなっちゃうよね」と答えた。2 人は「帰りのとき、みんなに聞いてみる！」とクラスで相談することに決めた。

降園時、A 児と B 児は「残りの大根はどうするのいいと思いますか？」と学級の友達に聞いた。すると、C 児が「だれかにあげるのはどう？」と提案し、他児はみな賛成した。D 児が「自転車屋さんにあげたいな。この間、段ボールをもらってお化け屋敷ができたから、もう 1 回ありがとうって言いたい」と話した。保育者は「D 君ありがとうって思ってたんだね。みんなはどうかな」と投げかけると、みんな賛成し届けに行く方法を考え始めた。



保育者の援助

互いの考えを伝え合う中で、自分たちが思ったことや考えたことを実現していけるように

- 自分たちの力で実現していくことを実感できるように、話し合いができる十分な時間を保障したり、必要に応じて仲立ちしたりする。
- 地域の人へ感謝の気持ちをもったことを受け止める。

環境の構成

収穫した大根に関心をもち、大切にする気持ちをもって関わっていけるように

- 子どもの目につきやすい場に大根を置き、絵やコメントなどを付けたり、関連する絵本や図鑑などを置いたりして興味や関心が広がるようにする。

「幼児期の終わりまでに育ってほしい 10 の姿」の視点から、大切にしたいポイント

★ “収穫した大根をどうするか” という思いを受けて、一人一人が自分の考えを出し合いながら、実現していく期待感を味わい、自信をもって関わろうとする。



協同性

言葉による
伝え合い

自立心

★ 身近な人への親しみから相手のことを考えて、感謝の気持ちを伝えようとする。



社会生活との
関わり

★ 栽培を通して、好奇心や探究心をもって関わったり、育ててきたことへの愛着から大根をどうしたらよいかを考えたりする。



自然との関わり・
生命尊重

★ 自分たちで育てた大根に関心をもち、多い・少ない、太い・細い等を比べたり、大根の数を数えたりする。



数量や図形、標識や
文字などへの関心・感覚

事例から読み取る **5歳児後半** の特徴

「幼児期の終わりまでに育ってほしい姿」と事例から見られる発達の特徴

健康な心と体

自分たちのやりたいことに向けて心と体を働かせたり、**見通しをもって過ごしたりする**。また、**安全を意識する**ようになる。(11・12月の事例より)

思考力の芽生え

自分たちのやりたいことを実現するために、**試したり、考えたり、工夫したり**して楽しむ。(12月の事例より)

自立心

これまでの園生活を通して、自分の力を十分に発揮することで、**自信をもっているいるなことに関わる**。(2月の事例より)

自然との関わり・生命尊重

生長を楽しみにして育てたり、収穫する喜びを味わったりして、**自然物に好奇心や探求心をもって関わりながら、大切にしている気持ちをもつ**ようになる。(2月の事例より)

協同性

友達と**協力する楽しさやおもしろさを実感し、互いに満足できるように試行錯誤する**。(11・12・2月の事例より)

数量や図形、標識や文字などへの関心・感覚

自分たちの遊びや生活の中で必要感をもって、**多い・少ない、太い・細い等を比べたり、物を数えたりする**ことを通して、数量や図形への興味・関心を深める。(2月の事例より)

道徳性・規範意識の芽生え

人との十分な関わりの中で、葛藤やつまづきを乗り越えたり、**友達や周囲の人の気持ちに触れて、相手の気持ちを考えて行動したりしようとする**。(11月の事例より)

言葉による伝え合い

いろいろな人との関わりを通して、話を聞いてもらったり、相手の話を聞いたりして**互いの思いを伝え合う経験を重ね、言葉で自分の思いを伝える**ことを楽しむ。(11・12・2月の事例より)

社会生活との関わり

地域の方の力を借りて、自分たちの遊びや生活が豊かになる体験を重ね、感謝の気持ちをもったり、自分がしたこと相手に喜んでもらえるうれしさを感じたりして、**地域に親しみをもつ**ようになる。(2月の事例より)

豊かな感性と表現

様々な素材の特性や、表現の仕方等に気付き**友達と一緒に作りあげていく過程を楽しむ**。(12月の事例より)

この時期に

大切にしたい保育者の **援助**

協同的な体験の積み重ねを大切に

- 一緒に遊び、考え合う友達がいることで、より主体的に人・物・活動に関わっていくことができるように、今までの生活を踏まえて、友達同士が互いに認め合える人間関係づくりを大切にしていく。

学びに向かう姿勢を育み、自信をもって就学へ

- さらにやってみたいという意欲やよりよくしたいと思う心情を受け止め、学びに向かう姿勢を支えられるよう、個々の興味や関心があることや今まで経験してきたことを踏まえて指導していく。
- 困難が生じたときにも、自分たちで解決に向かえるように、願いをもって見守ったり、方法を知らせたりする。

園全体で育む体制で、育ちのチャンスを逃さない

- 日頃から園内の教職員と連携を取り、保育者間の意識を共有しながら、子どもの育ちを促す援助ができるようにしていく。

この時期の

環境構成の **工夫**

環境に主体的に関わり、試行錯誤しながら目当てに向かえるように

- 今までの経験を生かして、考えたり、試したり、工夫したり、表現したりすることができるように、遊びに必要な材料を準備しておき、自分たちで選べるようにしておく。
- 子ども自身が必要感をもって、使いたい物がすぐに取り出せるように、表示を付けたり、分かりやすい場に置いたりし、遊びを通して学んだことを、生活の中で生かせるようにする。

教材の在り方、捉え方を広げ、活用する

- 保育者は、環境の中にあるそれぞれの物の特性を理解し、生かせるように教材研究をする。その教材から子どもの好奇心や探求心が膨らむように、用具や材料、自然物等、子どもの興味や関心に応じながら提示する。